大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2019年第34週(8月19日~8月25日)

今週のコメント

~RSウイルス感染症~ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 引き続き注意を」

第34週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,928例であり、前週比62.7%増(お盆休み前の第32週比27.0%減、以下同じ)であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナの順で、定点あたりの報告数はそれぞれ3.54、1.24、1.10、1.03、0.76であった。

感染性胃腸炎は前週比113%増(第32週比11%減)の698例で、南河内6.13、中河内4.45、三島4.41、泉州4.25、豊能4.00である。

RSウイルス感染症は前週比18%増(同21%減)の244例で、大阪市北部2.31、南河内2.25、大阪市西部2.00であった。

手足口病は前週比13%増(同53%減)の217例で、大阪市北部1.92、南河内1.88、中河内1.55 である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比62%増(同38%減)の202例で、南河内1.94、泉州1.55、中河内1.30 であった。

ヘルパンギーナは前週比30%増(同48%減)の150例で、中河内1.45、南河内1.25、大阪市北部1.00である。

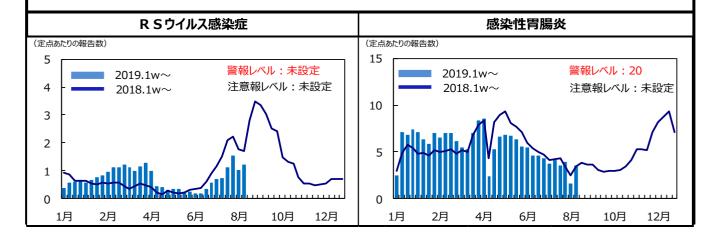


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2019年 第34週8月19日~8月25日)

第34週 の順位	第33週 の順位	感染症	2019年 第34週の 定点あたり 報告数	前週比増減	2018年 第34週の 定点あたり 報告数	2019年第34週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.54	113%増	3.47	1歳_17%
2	2	RSウイルス感染症	1.24	18%増	1.70	1歳未満_45%
3	3	手足口病	1.10	13%増	0.73	1歳_27%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.03	62%増	1.18	3歳_13%
5	5	ヘルパンギーナ	0.76	30%増	1.58	1歳_25%

第34週のコメント

〜梅毒〜 大阪府における2019年の梅毒報告数は600例を超え、2018年同時期と同程度

全数把握感染症 梅毒 国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあ (累積報告数) る。大阪府における2018年の報告数は、1,100例を 1400 •••• 2016 超え、前年比1.4倍を上回った。感染症法が施行され -2017 た1999年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性 1000 2019 行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚 800 や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。 600 400 また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅 200 毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で 治癒が期待できる。 2010年 2

<u>感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)</u> 梅毒とは(国立感染症研究所)

表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第34週8月19日~8月25日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています)

(報告がありに失志のか記載しています)											
	疾患名	報告数	豊 能	二島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8	1	2					1	4	119
	A型肝炎	1		1							16
4類感染症	デング熱	3							1	2	32
	レジオネラ症(肺炎型)	3			1					2	71
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1	120
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		1							188
5 類感染症	梅毒	11			1				1	9	692
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2							1	1	20
	百日咳	9		1	1			1	3	3	604
結核	結核 新登録患者数:141名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 50名)										
(2019年6月分)	(府内累積報告数 842名、内 肺·喀痰塗抹陽性 320名)										

(2019年8月27日 集計分)